

安全データシート

作成日：2019/12/05
改訂日：

ボンド UコートF 主剤

JIS Z 7253 : 2012 に準ずる

1. 化学品及び会社情報

製品特定名

化学品の名称 : ボンド UコートF 主剤
SDS番号 : 371356

供給者の会社名称

供給者の会社名称 : コニシ株式会社
住所 : 大阪市中央区道修町1-7-1
電話番号 : 06-6228-2994 (大阪営業推進部)
緊急連絡電話番号
緊急連絡電話番号 : 090-7356-6462

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限 : トップコート。所定の用途以外には使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理的危険性	引火性液体	区分2
健康有害性	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分1A
	生殖毒性(授乳に対する又は授乳を介した影響)	追加区分
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(肝臓, 呼吸器系, 腎臓, 中枢神経系)
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器系, 神経系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(腎臓, 中枢神経系)	
環境有害性	水生環境有害性(急性)	区分2
	水生環境有害性(長期間)	区分3

GHS分類結果が「分類対象外」、「区分外」、「分類できない」の項目は記載していない。

絵表示 (GHS JP)



GHS02



GHS07



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

- 危険有害性情報 (GHS JP) :
- 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
 - 皮膚刺激 (H315)
 - 強い眼刺激 (H319)
 - 吸入すると有害 (H332)
 - 呼吸器への刺激のおそれ (H335)
 - 眠気又はめまいのおそれ (H336)
 - 発がんのおそれの疑い (H351)
 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
 - 授乳中の子に害を及ぼすおそれ (H362)
 - 臓器の障害 (肝臓、呼吸器系、腎臓、中枢神経系) (H370)
 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系、神経系) (H372)
 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (腎臓、中枢神経系) (H373)
 - 水生生物に毒性 (H401)
 - 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)
- 注意書き (GHS JP)**
- 安全対策 :
- 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 - 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。(P210)
 - 容器を密閉しておくこと。(P233)
 - 容器を接地すること/アースをとること。(P240)
 - 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。(P241)
 - 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 - 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
 - ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
 - ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
 - 妊娠中/授乳期中は接触を避けること。(P263)
 - 取扱い後はよく手/眼を洗うこと。(P264)
 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 - 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 - 環境への放出を避けること。(P273)
 - 保護手袋を着用すること。(P280)
- 救急措置 :
- 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。(P302+P352)
 - 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 - 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 - 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 - ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)
 - ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。(P308+P313)
 - 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
 - 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。(P314)
 - 特別な処置が必要である。(P321)
 - 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。(P332+P313)
 - 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)
 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
 - 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
- 保管 :
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 - 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
 - 施錠して保管すること。(P405)

廃棄 : 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

重要な徴候及び想定される非常事態の概要 : 有機溶剤中毒を起こすおそれがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
 一般名 : ウレタン樹脂塗料 主剤

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
酸化チタン (IV)	10 - 20%	TiO ₂	(1)-558	—	13463-67-7
酢酸 n-ブチル	10 - 20%	CH ₃ COOCH ₂ CH ₂ CH ₂ CH ₃	(2)-731	2-(6)-226	123-86-4
キシレン	10 - 20%	C ₈ H ₁₀	(3)-3, (3)-60	—	1330-20-7
エチルベンゼン	5 - 10%	C ₈ H ₁₀	(3)-28, (3)-60	—	100-41-4
トルエン	1 - 5%	C ₇ H ₈	(3)-2, (3)-60	—	108-88-3
アクリル酸ノルマル-ブチル	< 1%	C ₇ H ₁₂ O ₂	(2)-989	—	141-32-2
メタクリル酸メチル	< 1%	C ₅ H ₈ O ₂	(2)-1036	—	80-62-6
スチレン	< 1%	C ₈ H ₈	(3)-4	—	100-42-5

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い場合は医師の診察を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに医師に連絡すること。
 多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
 直ちに医師に連絡すること。
 無理に吐かせないこと。
- 応急措置をする者の保護 : 適切な保護具を着用して作業する。

5. 火災時の措置

- 適した消火剤 : 粉末化学消火剤、炭酸ガスまたは通常の泡消火剤、砂／土
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない、水
- 火災危険性 : 極めて引火性の高い液体及び蒸気。
- 消火方法 : 火災の場合：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
- 消火を行う者の保護 : 圧縮空気・酸素呼吸器、

耐火防護服

6. 漏出時の措置

非緊急対応者

- 保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
- 応急処置 : 皮膚、眼との接触を避ける。
 漏出エリアを換気する。
 漏出した製品に接触することもその上を歩くこともしないでください。
 関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。
 排水溝または水路への侵入を防ぐ。
 製品を環境中に放出しない。

封じ込め及び浄化方法及び機材

- 封じ込め方法 : 大規模漏出の場合、溝に漏出を封じ込め、その後の安全な廃棄のため、
 湿った砂または土でふさぎます。
 可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法 : 少量の液体流出：不燃性吸収材に取り込み、廃棄用容器に入れる。
 砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。
 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 眼、皮膚、衣類につけないこと。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 作業所の十分な換気を確保する。
 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
 火気厳禁、静電気注意。
 『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

保管

- 安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 日光から遮断すること。
 乾燥した安全な場所に保管し、湿気を避ける。
- 保管温度 : 2 - 40 °C

8. ばく露防止及び保護措置

酸化チタン (IV) (13463-67-7)	
許容濃度(産衛学会)	0.3mg/m ³ ; 【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵 1mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³
許容濃度(ACGIH)	TWA 10 mg/m ³ , STEL -
酢酸n-ブチル (123-86-4)	
管理濃度	150ppm

許容濃度(産衛学会)	100ppm(475mg/m ³)
許容濃度(ACGIH)	TWA 50 ppm, STEL 150 ppm
キシレン (1330-20-7)	
管理濃度	50ppm
許容濃度(産衛学会)	50ppm(217mg/m ³)
許容濃度(ACGIH)	TWA 100 ppm, STEL 150 ppm
エチルベンゼン (100-41-4)	
管理濃度	20ppm
許容濃度(産衛学会)	50ppm(217mg/m ³)
許容濃度(ACGIH)	TWA 20 ppm, STEL -
トルエン (108-88-3)	
管理濃度	20ppm
許容濃度(産衛学会)	50ppm(188mg/m ³) (皮)
許容濃度(ACGIH)	TWA 20 ppm, STEL -
アクリル酸ノルマルブチル (141-32-2)	
許容濃度(ACGIH)	TWA 2 ppm, STEL -
メタクリル酸メチル (80-62-6)	
許容濃度(産衛学会)	2ppm(8.3mg/m ³)
許容濃度(ACGIH)	TWA 50 ppm, STEL 100 ppm
スチレン (100-42-5)	
管理濃度	20ppm
許容濃度(産衛学会)	20ppm(85mg/m ³) (皮)
許容濃度(ACGIH)	TWA 20 ppm, STEL 40 ppm

設備対策	: 十分な換気を行う、局所排気装置を設置する。
個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
手の保護具	: 適切な保護手袋
眼の保護具	: 適切な目の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣、必要に応じて保護服及び保護長靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	: 液体
外観	: 液体
色	: 指定色
臭い	: 溶剤臭
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: 125 - 144 °C
引火点	: 22 °C
自然発火温度	: 425°C
分解温度	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
蒸気圧	: 1533 Pa
比重	: データなし

密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に不溶
水	: データなし
Log Pow	: データなし
爆発限界 下限 (LEL)	: 1%
爆発限界 上限 (UEL)	: 7.6%
動粘性率	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 硬化剤と反応する。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
避けるべき条件	: 特に該当しない。
混触危険物質	: 酸化剤。硬化剤類。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分外
急性毒性 (経皮)	: 区分外
急性毒性 (吸入)	: 非該当 (気体) 吸入すると有害 区分外 (粉じん、ミスト)

ATE JP (蒸気)	11 mg/l/4h
-------------	------------

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 強い眼刺激
呼吸器感作性	: 区分外
皮膚感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 発がんのおそれの疑い
生殖毒性	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 授乳中の子に害を及ぼすおそれ
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害 (肝臓, 呼吸器系, 腎臓, 中枢神経系) 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系, 神経系) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (腎臓, 中枢神経系)
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない

12. 環境影響情報

- 生態系 - 全般 : 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱に注意する。
- 水生環境有害性(急性) : 水生生物に毒性
- 水生環境有害性(長期間) : 長期継続的影響によって水生生物に有害

ボンド UコートF 主剤	
残留性・分解性	データなし

ボンド UコートF 主剤	
生体蓄積性	データなし

ボンド UコートF 主剤	
土壌中の移動性	データなし

- オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 外箱、紙管など紙製容器・包装：回収または紙くずとして処理（単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物）。空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。
- 金属缶、金属ドラム、金属チューブ類：金属くずとして処理（単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。
- ガラス容器：ガラスくずとして処理（単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。
- プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチック類として処理（単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。
- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従うこと。廃棄の際は危険情報の反応性を踏まえて処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

道路輸送 (UN RTDG)	海上輸送 (IMDG)	航空輸送 (IATA)
国連番号		
1263	1263	1263
国連正式品名		
塗料	PAINT	Paint
輸送危険物分類		
3	3	3

		
容器等級		
II	II	II
環境有害性		
環境有害性：非該当	環境有害性：非該当 海洋汚染物質：非該当	環境有害性：非該当

海洋汚染物質：非該当
 特別な輸送上の注意：『7. 取扱い及び保管法』の記載に従うこと、
 容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

国内規制

陸上規制：消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
 海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。
 航空規制情報：航空法の規定に従う。
 緊急時応急措置指針番号：128
 その他の情報：補足情報なし

15. 適用法令

労働安全衛生法：特定化学物質第2類物質、特別有機溶剤等（特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2号、第3の2号、第3の3号）
 第2種有機溶剤等（施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号）
 作業環境評価基準（法第65条の2第1項）
 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）
 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）
 健康障害防止指針公表物質（法第28条第3項・厚労省指針公示）
 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）
 キシレン（政令番号：136）（10～20%）
 酢酸ブチル（政令番号：181）（10～20%）
 酸化チタン（I V）（政令番号：191）（10～20%）
 スチレン（政令番号：323）（1%未満）
 アクリル酸ノルマルブチル（政令番号：4）（1%未満）
 トルエン（政令番号：407）（1～5%）
 メタクリル酸メチル（政令番号：557）（1%未満）
 エチルベンゼン（政令番号：70）（5～10%）
 特定化学物質特別管理物質（特定化学物質障害予防規則第38条3）
 毒物及び劇物取締法：該当しない
 消防法：第四類 第二石油類 非水溶性 「火気厳禁」 危険等級 III
 悪臭防止法：特定悪臭物質（施行令第1条）
 外国為替及び外国貿易法：輸出貿易管理令別表第1の16の項
 船舶安全法：引火性液体類（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
 航空法：引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）
 港則法：その他の危険物・引火性液体類（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）
 化学物質排出把握管理促進法（PRTR）：第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1）

法)	トルエン (政令番号：300) (1.6%) エチルベンゼン (政令番号：53) (9.5%) キシレン (政令番号：80) (12%)
労働基準法	: 感作性を有するもの (法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8労基局長通達、基発第182号)

16. その他の情報

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

SDSの伝達の経路：安全データシート (SDS) は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。

恐れ入りますが、未入手の場合のSDSの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。

【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。